

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	KOKO舎	公表日	令和 8年 2月 13日			
項目	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	1	利用者が発達支援等々のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	適切である。利用者に合わせたスペースを備えている。	もう1台ベッドがあってもよい。
環境・体制整備	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員配置数は適切であるか。	4	2	職員の突然の休職時に看護師や言語聴覚士が不足する可能性がある。その場合は、非常勤の職員に声をかけようとしている。また、SNSでの発信等を通して求人をかけている。	急に利用者が来たときの職員の人数が少ない。曜日によって職員が少ない日がある。トータルでは職員が足りると思うが、スタッフの人数と状況を考慮し、利用者の受け入れをする必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障壁の特性にふし、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	利用者の特性に合わせて上上がりとフロアを使い分けている。	トイレ空間の設備を整える必要がある。(手すりを設置する)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	利用者の声や要望に応じて、毎日掃除、消毒、消毒を行っている。また新しい場所などはカラーコーンなど使用し定期的な消毒を行っている。	広いため、臭いや気配の下に感さず、床に掃除機が通らないため、変更を徹底するなどの対応が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	ベット、小上がり、個室(静かに過ごせる)がある。利用者の状況によって色んな場所で過ごせるように環境を整えている。	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	5	1	定期的にミーティングを行ったり、ヒアリングやアンケート等、共有できる時間を設けている。	委員会を設け、進めている最中である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	保護者向けアンケートを実施している。その結果を基に改善しようとしている。	
	8	職員の見習いを把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	ミーティングや日々の朝礼などで職員から意見を集め、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1	第三者機関による評価はあてはまらない。	今後実施していくと考えていく必要がある。
	10	職員の資力の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を実施する機会が確保されているか。	6	0	支援課や外部からの研修情報から研修、受講案内をしている。またジョブメドレーアカデミーの研修機会を活用し、受講できる機会がある。	更に機会を設けていく必要がある。
	11	適切に支援プログラムを作成、公表されているか。	5	1	ホームページで公表している。	
業務改善	12	様々なことに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等サービス計画を作成しているか。	6	0	アセスメントの活用と定期的に保護者さんとコミュニケーションをとり、ニーズや課題を聞き、計画を作成している。	
	13	放課後等サービス計画を作成する際には、児童発達支援施設職員だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの課題の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	全職員で意見を出し合い、共有、理解した上でアセスメントと検討が行われている。	
	14	放課後等サービス計画が職員間にも共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	毎日の様子や個別記録に記入する際に、一緒に確認し、職員が計画内容がわかるようにしている。	
	15	こどもの発達行動の状態を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	発達支援の領域に合わせて状況を整え、アセスメントしている。	標準化されたツールを用いたアセスメントを使用しているが理解できていない職員もいるため、全員が把握できるように取り組む必要がある。
	16	放課後等サービス計画には、放課後等サービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び実施内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	モニタリング会議でスタッフの意見を聞き、利用者に対して統一した関わりができるようになっている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	朝礼当番が朝日に活動内容を決めている。当日の朝礼時に今日はこの活動をしよう！と意見を話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	毎日同じ活動にならないよう、療育や課題などの内容など、利用者さんがない日に作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適切に組み合わせて放課後等サービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	平日は個別の活動になる事が多いが、長期休暇や休みなどは集団活動もしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼を行い、その場で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	5	1	翌日の朝礼で、前日の問題点等の振り返りを行っている。	支援の振り返りはない。
適切な支援の提供	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	個別記録を抜き、定期的に個別会議を持って検証・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの実施性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24	放課後等サービスガイドラインの「4つの基本活動」を徹底組み合わせて支援を行っているか。	6	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促すための支援を行っているか。	6	0	たくさん選択できるように工夫がされている等、自己決定を促すための支援を行っている。	
	26	障害児福祉支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	6	0	児童発達支援管理責任者のみではなく、看護師やリハビリ職も参加している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育との関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		主治医や保健所等は把握しているが、密に連携ができていないため、体制を整えていく必要がある。
	28	子どもの情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下等特別の履歴等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	6	0	連絡が学校への連絡時に、利用者さんの保護者や伝達事項などの情報共有しているが、連絡に連携調整などを行うようコミュニケーションを取っている。	
	29	見学前に申し込んだ保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解が図られているか。	6	0		他施設との情報共有はある程度行われているが、しっかりと理解できるように至っていない職員がいる。
	30	学校卒業し、放課後等サービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供等しているか。	5	1	担当会議で放課後や事業所と今後の移行について情報共有している。	まだ確認していないためわからない職員がいる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	研修があれば、監督者が職員に対して研修情報を発信している。	まだ確認していないためわからない職員がいる。
関係機関や保護者との連携	32	放課後等クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	外出活動を行い、地域の方との交流を促している。	現在は行ってない。他の児童との交流を促していく必要がある。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	子ども部会や防災訓練等に参加している。	管理職から、どこからの情報を職員に伝えていく必要がある。
	34	日頃からこどもの状態を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	連絡帳や送迎時に情報交換を行っている。保護者さんから頂いた情報は朝礼時に共有し、共通理解ができるようにしている。	
	35	家との対立力の向上を図る観点から、家族に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	Instagramイベントや研修等の実施をしている。研修等の実施に、親のアカウントと対応(いいね)することで、他のフォローへの情報提供につなげている。	保護者が参加できる研修や連絡帳などで共有している。研修等の実施に、親のアカウントと対応(いいね)することで、他のフォローへの情報提供につなげている。保護者が参加できる研修などの機会を設ける。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時にしている。	定期的、変更時には改めて説明する必要がある。
	37	放課後等サービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや保護者の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	送迎時やイベント参加時に状況や意向などを聞いている。	
	38	「放課後等サービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等サービス計画の同意を得ているか。	6	1	担当者が丁寧に説明し、同意を得ている。	
	39	事業所からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な支援を行っているか。	4	2	送迎時に、保護者からの相談を把握している。	相談の対応で合う機会がない保護者とは、電話連絡でのコミュニケーションをとる。連絡帳に記入することを働きかけスペースを設ける。
	40	父母のみの活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士が交流する機会を設ける支援を行っているか。	0	4		参加する予定のイベントを、お祭り(園だより)を通して事前に保護者に伝え、興味がある場合には参加してもらうことで、保護者や兄弟との交流を促していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情や意見があった場合は、速やかに連絡帳や記録に記録し、説明や改善へと繋がっている。	
保護者への説明等	42	定期的に連絡帳を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	SNS、お便りなど活用し発信している。	
	43	個人情報取扱に十分留意しているか。	6	0	写真や名前が掲載されている許可を得ている。	
	44	障壁のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	送迎時には必ず、その日の様子、状態を伝えるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	2	3		感染症を考慮すると事業所への招待は難しいが、もしあれば、地域の方のパンフレットを配布するなど、事業所について知ってもらう機会を設けていく。
	46	感染防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		事故、緊急、防災、感染それぞれマニュアルの用意し、改善をそれぞれの委員会で行っている。
	47	個別支援計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な訓練、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	自立支援課や西区などのBCP研修などに積極的に参加し、参加した職員から参加できなかった職員へ共有をすようしている。	BCPの設置を高める必要がある。研修や訓練などを行っている。
	48	事前に、職業や予約依頼、てんかん発作等のこどもの状態を確認しているか。	6	0	個別支援計画やスタッフの記録、情報を確認できるかについて確認し、さらに職員や親にもわかるよう、スケジュールに(職業情報・特許・注意事項)の項目を設けている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	個別支援計画やスタッフの記録、情報を確認できるかについて確認し、さらに職員や親にもわかるよう、スケジュールに(職業情報・特許・注意事項)の項目を設けている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を実施する等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		もう少し研修や訓練を行う必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	委員会を設けた。	委員会を設けて、必要事項があれば連絡帳を通じて発信を始めたところ。
非常時等の対応	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討を行っているか。	6	0	インシデントやヒヤリハットについては報告書の記載し連絡ノートや翌日の朝礼やMTにて早期の改善、振り返りにて再発防止を行っている。	報告書がないよう、簡易の小さな出来事報告の作成し記入する仕組みを設けるようにしている。
	53	非常時を止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	ジョブメドレーアカデミーでの研修や委員会を設けている。	委員会を設けて、必要事項があれば連絡帳を通じて発信を始めたところ。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等サービス計画に記録しているか。	6	0	個別支援計画に必要とした場合の対応としている。事前に同意を得て記入し、保護者等に説明、承諾を得ている。	